



だより



R6.10.22 Vol.24

#### うちのお父さん

「校長先生！釣りが好きなんですよ？」「うん！大好きよ！」「自分で捌くんですか？」「もちろんやん、包丁も研ぐよ！」「すごいですね！でも、うちのお父さんはもっとすごいんですよ！」「そうなん！？」「はい！うちのお父さんが研いだ包丁はピンピンやし、魚もすぐ上手に捌きますよ！どんな魚だってあっという間にきれいに捌いてくれるし、壊れたものがあったてもすぐ直してくれます。ほんとにすごいんですよ！」「それはすごいな！スーパーマンやな！」「はい！そうです！捌けない魚はフグくらいです！」「あ！！毒あるもんね！」「はい…それです…。」とその後も、うちのお父さんの話が続きまして。

素敵だなと思います。私が父を尊敬し始めたのは高校生くらいでしょうか。(それまでは怖い存在でしかなかったです。)私自身は息子たちにどう思われているのやら(泣)この子のお父さんがうらやましい限りです。

#### うちの教頭先生

「校長先生！今度の避難訓練はもっと現実を細かく想定してこう変えたいと思います。」そんな提案をいつもしてくれる教頭先生。

南海地震がいつ起こるかわからない昨今、我々、教員、特に管理職はいかに子供の命を守るか！常に意識しておかなければなりません。「しなくちゃいけないからやっている訓練」と「どうすれば子供の命を守れるかを想定して行う訓練」は、まったく別物と言っているほどの差があります。

「校長先生！実際問題、運動場に集まりましょう！なんて校内放送ができない状況があると思うんです！だから、こうして！ああして！避難することを訓練しておきたいんです！」「ぜひ！お願いします！」訓練は本番だと思って！本番は訓練だと思って！頼もしくありがたい限りです！

#### 四方山話真穴 ver. 其の二十四(オーロラの大地から！)

先日の人権参観日、多数のご参観ありがとうございました。参観授業後には自然写真家の松本紀生さんを講師に招いて講演会を開催しました。『オーロラの大地から』息をのむほどのアラスカの大地の映像や写真の数々に圧倒されました。松本さんが講演の中でこんな話をされました。「(映像にある)鮭はクマにつながり、森の動物につながり、森ともつながって生きているんだよ。森もまたいろいろな生き物とつながって成長しているんだ。人間もその一部なんだよ。スーパーに並んでいる鮭を見てごらん、アラスカ産って書いてるかもしれないよ。」日々の喧噪の中、つい忘れてしまっているけど、忘れてはならないことだと感じました。この便りで何度か話題にしていますが、どんなにデジタル化が進もうが、人間は自然の一部であることを忘れてしまうと、地球から手痛いしっぺ返しをくらうと私は思っています。

講演会の前後、校長室でしばらく雑談をしました。私もアウトドアでの活動が好きなので、個人的な趣味の話にもなったのですが、講演会后、「素晴らしい映像の数々をありがとうございました。なんて言うんでしょう。感動を通り越して涙が出そうになりました。実際に現地でそれを見る松本さんの感動はものすごいんじゃないですか？うまく言えませんが圧倒的な自然に対する畏怖や、言葉で言いようのない感動みたいな…。」そう伝えると「もちろんそうなんです、私はこんな講演会で、私が紹介する映像を見て自然に子供たちの歓声が沸き起こった時、嬉しくて涙が出そうになることがあります。」そうおっしゃいました。

乱暴な言い方かもしれませんが、私たち教師にとって子供は日常であり、アラスカの自然は非日常ですが、松本さんにとっては、アラスカが日常であり、子供たちが非日常なのかもしれません。非日常の何かに触れた時、感情が揺さぶられるのかなあと思っていると、解剖学者で作家でもある養老孟子さんの言葉が頭に浮かんできました。「子供とは自然である。」養老さんは、折に触れ、このことを言っています。「あ！」と合点がきました。お互い「自然」に感動してるんだと。「今の純粋な気持ち忘れないで下さいね。」と松本さんが最後に子供たちに伝えていました。私たち大人も時には思い出したいですね。忘れていくかもしれない純粋な気持ち。